

2025年度 営農に役立つ研究成果フォーラム

2026年3月6日13時55分～14時10分

高い着莢位置が収穫を変える！ 小豆新品種『きたいろは』 の可能性

営農支援センター

訓子府実証農場

農産技術課 (☎0157-47-2130)

小豆生産の現状と課題

現状

- ・ 北海道は国内小豆生産の約97%を占める基幹産地
- ・ 近年の全道作付面積は横ばい

課題

- ・ 近年の高温により、収穫遅延や収量、品質の低下
- ・ 品目特有の管理の難しさ
- ・ **ダイレクト収穫によるロス**

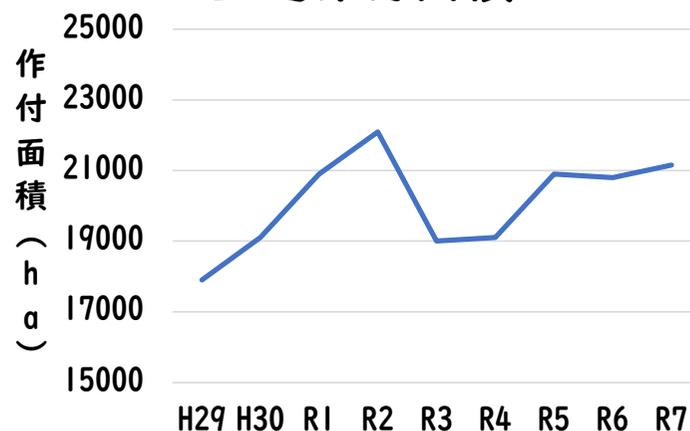
二次生長した年の小豆



生産量



全道作付面積



出典：作物統計調査（農林水産省）

コンバイン収穫



収穫方法について

ニオ積み収穫体系

①



ビーンカッタ (刈り倒し)

②



ニオ積み (乾燥)

③



ビーンスレッシャ
(脱穀)

ダイレクト収穫 (1工程)



豆類専用 **ロークロップ** ヘッド
コンバイン



汎用 (豆・稲・麦) **リール** ヘッド
コンバイン

ピックアップ収穫 (2工程)

①



ビーンカッタ (刈り倒し)

②



ピックアップスレッシャ等
(収穫・脱穀)

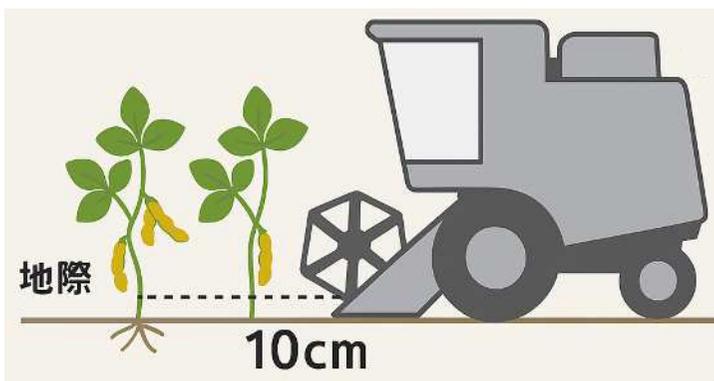
なぜ新品種「きたいろは」なのか？

課題

現行品種：着莢が低くロス多い
 ☞ダイレクト収穫では不利
 (大型機械)

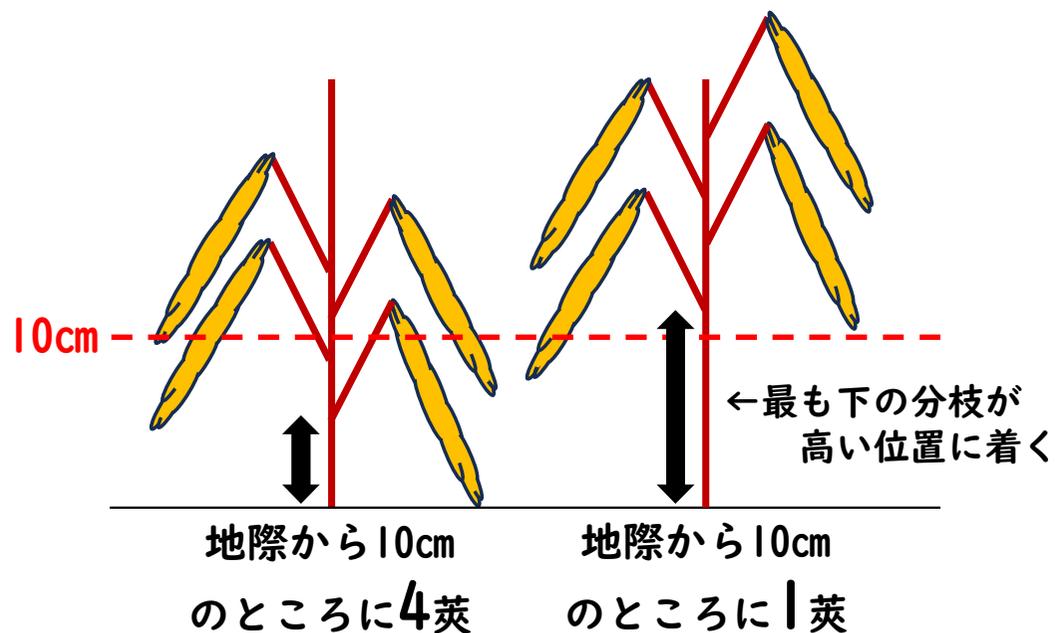


きたいろは：着莢が高くロス少ない
 ☞コンバイン収穫向き



リールヘッドでの地際10cmイメージ

地上から10cm以内にある莢数のイメージ
 「きたろまん」「きたいろは」



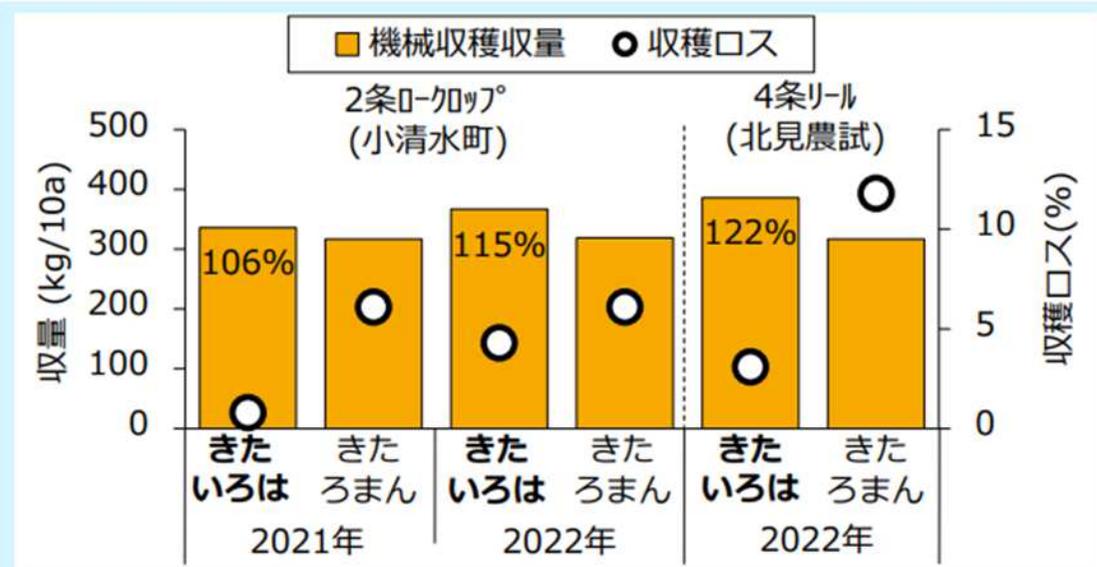
十勝農試の試験事例

手刈り収穫 (2020~2022年、のべ31か所平均)

品種名	成熟期 (月日)	倒伏 程度	地上10cm 莢率 (%)	手刈り 子実重	百粒重 (g)
きたいろは	9.15	少	6.0	94	14.9
きたろまん	9.17	少	13.3	100	15.8

注1) 地上10cm莢率：地際から10cmの高さに一部でも含まれる莢数の、全莢数に対する割合。
注2) 子実重：「きたろまん」(339kg/10a)に対する百分率。

機械収穫での収量および収穫ロス



注) 1. 10a規模で栽培試験を行い、収穫調査を実施。
2. グラフの百分比は「きたろまん」に対する「きたいろは」の機械収穫収量比を示す。

「きたろまん」 > 「きたいろは」

「きたいろは」 > 「きたろまん」

試験内容

目的

当農場(オホーツク地域)事例の蓄積

試験区

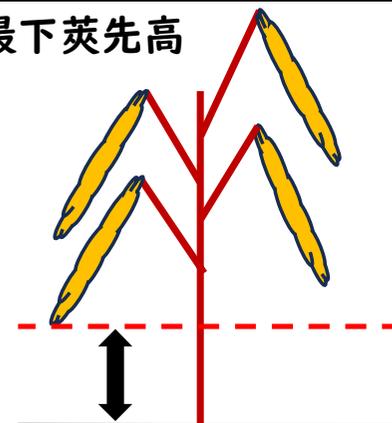
品種	株間	畝間	反復数	説明
きたろまん	9cm	66cm	2	-
	6cm			
きたいろは	9cm			
	6cm			

・きたろまんとの比較
・栽植密度による生育の違い

調査内容

時期	項目
生育調査	主茎長、莢数、青莢数、最下莢先高 [※] 、最下10cm莢率
収穫調査	子実重、百粒重、クズ等割合、品質(検査等級)

※最下莢先高



生育調査

結果

系統名 または 品種名	調査 区分	成熟期における			
		主茎長 (cm)	莢数 (莢/1本)	最下莢 先高 cm	地際 10cm率 %
きたいろは	慣行区 (9cm)	74.8	34.4	7.4	4.4
きたろまん		86.2	32.0	5.8	7.5
きたいろは	密植区 (6cm)	74.0	32.3	9.9	2.8
きたろまん		93.6	34.8	6.6	5.6

「きたいろは」は「きたろまん」より

- ・主茎長が短い
- ・最下莢先高が高い
- ・地際10cm率が少ない
- ☞機械収穫ロスの低減が期待される

きたろまん

7/10撮影



7/22撮影



きたいろは



収量調査

結果（手刈り）

系統名 または 品種名	調査 区分	子実重	対照比	クズ等 割合	百粒重
		kg/10a	(%)	%	(g)
きたいろは	慣行区 (9cm)	298	124	4.0	13.5
きたろまん		241	100	3.6	16.5
きたいろは	密植区 (6cm)	298	95	2.9	13.3
きたろまん		314	100	3.4	14.8

まとめ

- ・「きたろまん」：密植により増収
- ・収量：きたいろは > きたろまん

品種比較

- ・収量（子実重）
きたいろは > きたろまん
- ・百粒重
きたろまん > きたいろは

栽植密度（収量）

- ・きたいろは
慣行区 = 密植区
- ・きたろまん
密植区 > 慣行区



小豆新品種『きたいろは』の可能性

栽植密度に関わらず、地際10cm莢率が少なかった。

👉 当農場(オホーツク地域)においても、十勝農試で得られた結果と同様の結果が確認された。

高い着莢位置を持つ『きたいろは』は、収穫ロス低減が期待できる可能性がある。

次年度に向けて

【3つの現場課題】

高温年



二次生長

収穫作業



収穫ロス、倒伏等

野良生え



【対策試験】

新品種

きたいろは
作付

複合的
対策

栽培
管理

機械的
処理

次年度に向けて

【3つの現場課題】

高温年



二次生長

収穫作業



収穫ロス、倒伏等

野良生え



【対策試験】

新品種

きたいろは
作付

現場で新品種の特性を一緒に確認できればと思います。

ぜひ、訓子府実証農場へお越しくください！